

しょうわ

議会だより

第 35 号

平成17年

10月25日

9月定例議会



▲川額 八幡宮 豊年踊り

おもな内容

平成16年度 **決算認定** (2~3ページ)

9月定例会で決めたこと (4~5ページ)

一般質問 村の姿勢を問う (8~9ページ)

読者シリーズ **聞きたい 知りたい みんなの声** (14~16ページ)

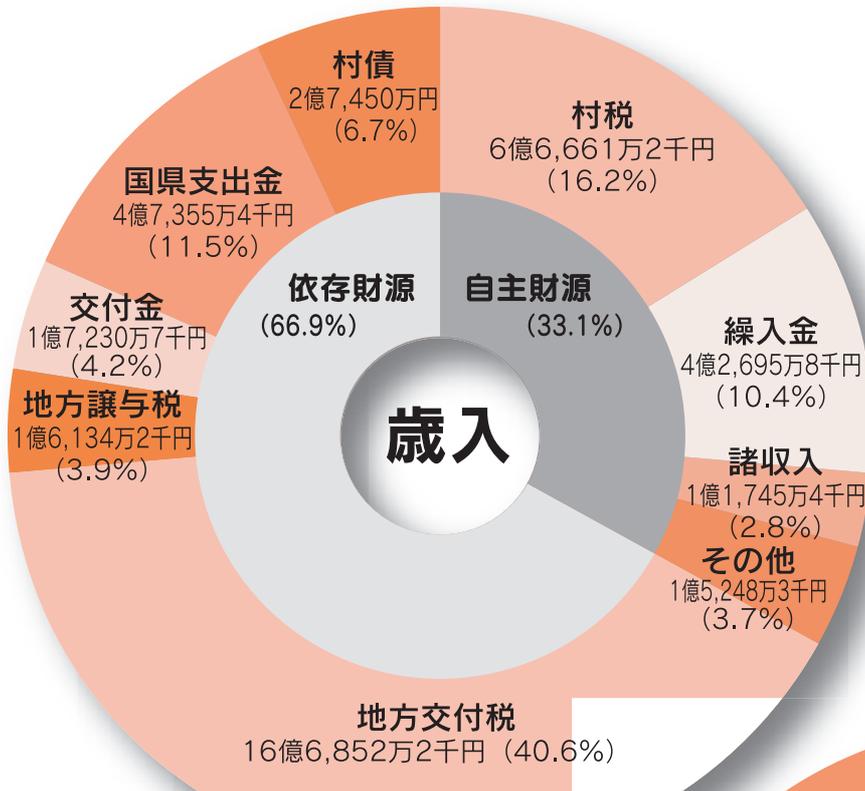
— 特集 戦後60年を迎えて —

平成16年度決算 一般会計・特別会計

歳入総額 **68億731万6千円**

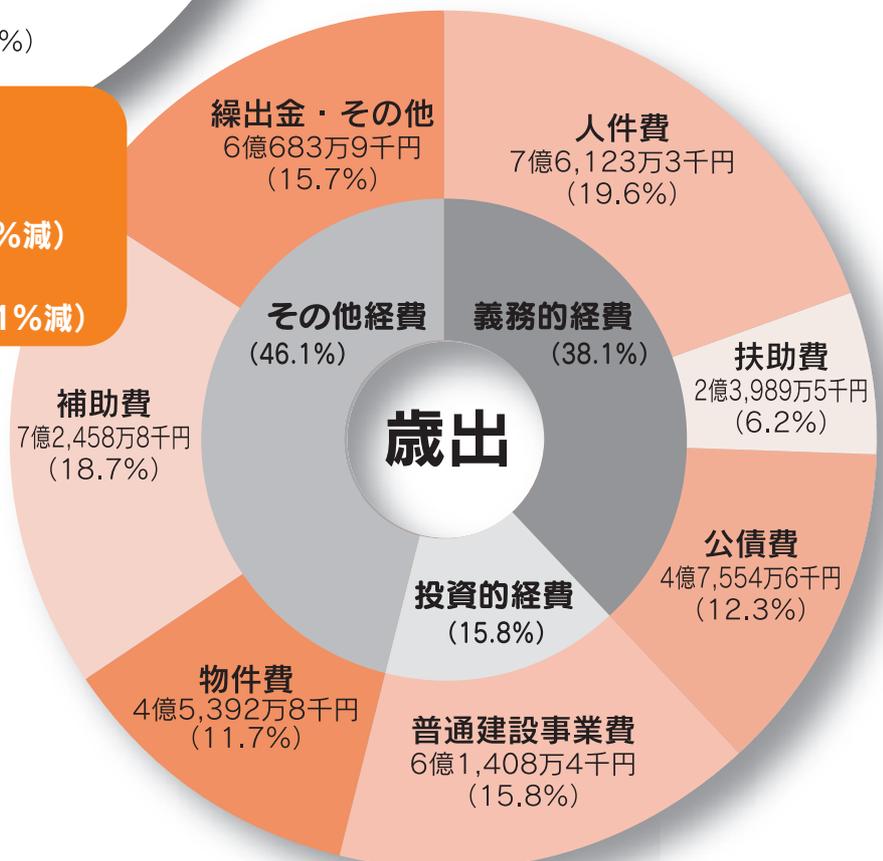
歳出総額 **63億6,125万円** を認定

9月定例会は、9月7日（水）から16日（金）までの10日間の会期で開催されました。補正予算を含む議案7件、人事案件1件、議員発議4件が上程され、いずれも原案のとおり可決しました。また、平成16年度昭和村一般会計及び特別会計決算認定について審議を行い、各会計とも提出された決算書のとおり認定しました。最終日の一般質問では2名が登壇し、質疑応答がなされました。



一般会計 (賛成多数 反対1)
 歳入総額 **41億1,373万2千円**
 (前年度比 **9.9%減**)
 歳出総額 **38億7,611万3千円**
 (前年度比 **11.1%減**)

本村の財政構造は、自主財源の構造比が33.1%と低水準にあり、依然として地方交付税などの依存財源に頼らざるを得ない厳しい状況です。議員報酬の引き下げ、特別職の給与等の削減、職員手当の廃止及び削減、各種団体の補助金の削減等歳出の抑制を図り、限られた財源の中で各種施策の厳しい選択を行い、村民福祉の向上のため節度ある財政運営がなされました。



特別会計

国民健康保険事業特別会計 (賛成多数 反対1)

歳入総額 9億4,394万5千円
(前年比 3.7%増)
歳出総額 8億1,233万3千円
(前年比 5.5%減)

・国民健康保険税の税率改正と一般会計からの繰入金等により歳入増となり、歳出においては老人保健拠出金が減ったことから1億3,100万円の余剰金となりました。

老人保健事業特別会計 (全員賛成)

歳入総額 7億9,879万3千円
(前年比 1.9%増)
歳出総額 7億7,289万1千円
(前年比 0.9%増)

・歳出の99.7%が医療費として支出されました。

簡易水道事業特別会計 (全員賛成)

歳入総額 1億5,128万4千円
(前年比17.0%減)
歳出総額 1億2,937万2千円
(前年比22.1%減)

・歳入・歳出ともに大幅な減額になっていますが、営農飲雑用水施設整備事業の工事費の減額によるものです。

農業集落排水事業特別会計 (全員賛成)

歳入総額 3億6,065万9千円
(前年比38.3%減)
歳出総額 3億4,940万8千円
(前年比38.6%減)

・農業集落排水事業が終了したことに伴い事業費が減額となりました。

介護保険特別会計 (全員賛成)

歳入総額 4億3,890万3千円
(前年比 1.2%減)
歳出総額 4億2,113万3千円
(前年比 2.6%減)

平成16年度の おもな事業

総務費

- ・借上げ賃貸住宅事業

衛生費

- ・地域新エネルギービジョン策定

農林水産業費

- ・堆肥舎施設整備事業
- ・農用地総合整備事業費負担金
- ・シカフェンス設置工事
- ・営農支援環境整備事業によるトイレ設置工事
- ・農地等高度利用促進事業による追分地区圃場整備



◀ 3つ目の公衆トイレが完成 (貝野瀬)



消防ポンプ車を購入 ▶

土木費

- ・農村総合整備事業 農道2号線
- ・小規模土地改良 (八幡木・関屋・吹張地区)

消防費

- ・消防ポンプ車整備 (第1、第2分団)
- ・消防指令車整備

教育費

- ・大河原小学校屋内運動場耐震補強設計
- ・昭和中学校剣道場整備

監査委員の

決算審査総括的意見

(要約)

代表監査委員 松井源之助 氏

監査委員 小野一男 氏



平成16年度における一般会計及び特別会計の予算執行並びに財政運営状況について審査した結果、地方公共団体の財政運営の良否を判断する実質取支は各会計ともに黒字である。これについては、歳入を計り歳出は厳しく見直し、少ない経費で重点施策を実施したと評価した。

本村の財政構造は、自主財源13億6千万円で、自主財源比率は33・1%と低く、村税は6億6千万円で歳入に占める割合は16・2%である。財政の弾力性の判断指標である経常収支比率は、94・2%と依然として硬直化しており、公債費4億7千万円、公債費比率も13・8%と昨年より1・4%上昇している。このようなことから、行政需要に対し適否も判断し、各種施策の選択と見直し、内容の充実を図り、地方自治法並びに地方財政に基づき、中長期的視点での効率的かつ節度ある財政運営を望みます。

こういふことが 決まりました 9月定例会

条例改正

地区会制を廃止 36行政区に

昭和村の区の設置及び組織に関する条例

永井、入原、川額、橡久保、赤城原地区の地区会制を廃止し、現在の31行政区から36行政区として区の運営をしていただくことになりました。

改正前		改正後	
永井	永井下組	永井	永井上組
入原	入原下組	入原	入原上組
川額	川額	川額	川額
橡久保	三ッ谷	橡久保	三ッ谷
	北 部	橡久保	北 部
	南 部	赤城原第一	南 部
赤城原	赤城原第一	赤城原第一	赤城原第一
	赤城原第二	赤城原第二	赤城原第二

施行日は、平成18年4月1日からです。

(全員賛成)

その他

群馬県市町村総合事務組合の規約変更について

昭和村特別職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

昭和村の区の設置及び組織に関する条例の改正に伴い、地区会長の報酬を削除するもので、施行日は平成18年4月1日です。

(全員賛成)



林 武夫 氏

固定資産評価審査委員に

林 武夫 氏

固定資産評価審査委員に、林武夫氏（池原）が選任されました。村議会議員、昭和村商工会長、池原区長等を歴任されており、数々の経験を生かした林氏のご活躍を期待いたします。

補正予算

平成17年度

一般会計（第3号）

2千530万7千円追加

総額 41億6千689万5千円

(全員賛成)

簡易水道事業特別会計（第1号）

260万円追加

総額 1億2千232万7千円

(全員賛成)

農業集落排水事業特別会計（第2号）

892万円追加

総額 3億3千729万2千円

(全員賛成)

介護保険特別会計（第1号）

188万9千円追加

総額 4億5千655万円

(全員賛成)

9月定例会

議会日程

9月7日（水）

本会議

全員協議会

議会広報編集特別委員会

休会

9月8・9日（木・金）

全員協議会

9月10・11日（土・日）

休会

9月12日（月）

民生文教常任委員会

9月13日（火）

総務常任委員会

9月14日（水）

産業建設常任委員会

9月15日（木）

予備日

9月16日（金）

本会議

全員協議会

議員発議

意見書を 提出しました

自治体病院における医師の確保を 求める意見書

少子高齢化対策にあらゆる叡智を絞って出生率の向上、小児医療の充実を期すことが最重要課題になっているにも拘わらず、特に産婦人科医師及び小児科医師が自治体病院から引き上げられる現象が最近顕著であり、当村ではたいへん憂慮される事態を迎えています。

よって国は自治体病院における医師の確保について、少子化対策の観点からも早急に適切な措置を講じられるよう要望します。

平成17年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会



分権時代の新しい地方議会制度 の構築を求める意見書

平成11年の地方分権一括法の成立により、地方公共団体の自己決定権と自己責任はますます大きくなり、地方議会の権限も飛躍的に拡大した。

しかしながら、現行の地方議会制度は、二元代表制を採用しながらも、長と議会の機能バランスを欠き、議会本来の機能が発揮されていない。

よって、国においては、所要の措置を早急に講じ、分権時代に対応した新たな地方議会制度を構築されるよう強く要請する。

平成17年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会



全頭検査によるBSE対策の 継続等を求める意見書

我が国で初めてBSE（牛海綿脳症）の発生が確認されて以来、消費者は、牛肉の安全性について大きな不安を抱き、畜産農家や関連事業の経営は、多大な打撃を被ってきました。

国におかれては、食の安全の確保を図るとともに、国内の畜産業及び関連業界の発展を図るため、特段のご配慮を強く要請するものであります。

1. 全頭検査や特定部位の完全除去など、現行の検査体制の継続を求めます。
2. 日本と同水準の検査体制が実施されないかぎり、アメリカ産牛肉の輸入禁止の継続を求めます。

平成17年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会

義務教育費国庫負担制度の 堅持に関する意見書

義務教育費国庫負担制度は、義務教育の機会均等とその教育水準の維持・向上及び地方財政の安定のため、国が必要な財源を保障するとの趣旨で確立されたものであり、これまで大きな役割を果たしてきたところであります。

しかしながら、段階的に一般財源化が進み、地方の負担は一段と増大しており、また、国の三位一体改革の中で、予算の減額を行うこととされた。

義務教育の水準確保と地方教育行政の充実を図るためには、来年度以降においても現行制度を堅持することが必要であります。

よって、昭和村議会は、政府、衆参両院議長に対し、義務教育費国庫負担制度の現行水準の維持を強く要望します。

平成17年9月17日
群馬県利根郡昭和村議会

常任委員会のうき

9月12日～14日

議会の3つの常任委員会では、付託された議案（請願・陳情）等の審査や所管する事項の諸問題について調査を行っています。

（請願・陳情書の内容については12ページに掲載）

総務常任委員会

久呂保地区ADSSL化

早期実現に向けて

吹張地区の国有地払い下げに関する陳情について、前回に続き結論を得るに至らず継続審査となりました。森下中組、下組区長ほか3区長連名によるNTT久呂保交換局のADSSL化早期実現の請願では、高速情報化時代による情報通信の発展に伴い、現在のISDN回線からADSSL化（高速通信化）が望まれるとの趣旨であり、久呂保局、赤城原局の対応の遅れによる地域住民の利便性を考え、全会一致で採択となりました。また、

平和行政推進に向けた要請書については、平和教育の実践、住民の立場に立った行政運営等の内容は理解できるということ

で、全会一致、趣旨採択をいたしました。

平成16年度決算認定の質疑においては、行政の弾力性を示す経常収支比

率が、15年度は86・3%、16年度は94・2%となっており、これは全県下のなことですが一層厳しい財政運営を強いられるとの説明でした。三位一体改革によって財源は「都市部に厚く、地方に薄く」と感じます。

現地調査においては、利根沼田広域消防本部の視察を行いました。



▲利根沼田広域消防本部 通信司令室

民生文教常任委員会

屋根補修工事費助

成について請願が出されている小高神社にあつては現地調査を実施。大変由緒ある神社であり、審査では文化財の指定を受けているかどうか、過去の事例で、文化財指定を受けていなくても補助金を出した例があるかどうか、また、村で残していくよう努力しなければ、この他の神社も朽ち果ててしまうのではないかと、様々な意見が出され、慎重審議を行った結果全会一致で趣旨採択いたしました。



▲屋根の補修が行われている小高神社

付託案件については、趣旨採択2件、採択1件全会一致をもって原案どおり可決いたしました。

また、貝野瀬地区内、社会福祉法人 昭和ゆた

か会運営の「星夜の森学舎」と、入原地区内、社会福祉法人 北毛清流会運営の「くりのみ学園」及び「たけのこ学園」の施設見学を実施しました。

産業建設常任委員会

地域生産物の

利用と提供の拡大を

地域農林水産業活性化を図るための「地産・地消自治体宣言」を求める請願については、「小規模な経営形態なら理解できるが、昭和村のように大規模な農業形態を取り入れている所ではあまりなじまない内容ではないか、野菜経営を考えた場

合、他市町村で消費してもらわないと成り立たない」という意見と、「昭和村ではこんな野菜ができるのか、こんな果物ができるのか、などと食文化を通して子供たちに郷土を理解してもらおうことが本旨ではないか」という意見がありました。採

決では全会一致採択となりました。

次に、全頭検査によるBSE対策の維持等を求める請願では、現在行われている全頭検査を継続していただきたいという意見がまとまり、全会一致採択となり、定例会最終日、議員

発議にて意見書の審議をすることに決まりました。

また、16年度決算質疑においては、一般家庭から出されるゴミについて話し合いました。肥料袋等様々な袋に入って出されるゴミの中には、分別すれば資源になるものが混じって出されている現状を見て、透明な袋を作り名前を書いてもらってはどうか、名前はまた早いのではないかと、分別を知るのが先ではない

かなど意見がありました。村では今後、燃えるゴミと燃やせないゴミの指定袋を作る方向ですが、ゴミを出す人に分別方法を理解していただくための講習も行う予定です。続いて防風ネット設置事業について、今年度設置箇所を調査したところ効果があるとのことでした。次年度も事業の継続を求める旨の意見が出され、当局からは継続していきたいとの解答がありました。



▲星夜の森学舎で

在宅重度心身障害者等の

デイ・サービス施設建設へ

村では、村運営の在宅重度心身障害者を対象としたデイサービス施設（定員6名）を、星夜の森学舎敷地内に建設、昭

和ゆたか会に運営委託することになりました。来年度から事業開始予定であり、今後職員等の募集を行っていきます。



▲旬菜館には野菜王国昭和村の野菜がずらっと!!



▲ゴミのリサイクル施設を視察

村の姿勢を問う！



高橋幸一郎議員

消防団活動を通して、災害に対する意識の高揚を図る

Q 群馬県一の昭和村消防団の技術と団結力を、ぜひとも地域住民の防災活動のために役立てていただき、各区において消防訓練を定着化させ、村民だれでも、いつでも、どこでも対応できるようにしていただきたいと思うが、村長の防災に対する具体的な考えをお聞かせ願いたい。

A 村 長

村民みずからが自分の安全は自分で守るという意識を持ち、平常時から初期消火に努めるなど防災対策を考えておく必要があると思っております。訓練の実施時期については、各区の判断において実施していただいておりますが、今後消防団とも話し合いをし、地区



を分けた避難訓練等も実施をしていきたい。また、横浜市との相互応援協定締結により、互いに助け合う環境が整ったのだと思っております。本村も今回の協定書の趣旨に沿うべく、災害時に対する備えをしていきたい。

公共施設使用許可申請等の簡素化を

A 村 長

Q インターネットのホームページを利用して、公共施設の使用状況の確認や申し込みができるようにし、また使用料の支払いについても、コンビニや郵便局、金融機関を利用しての支払いがスピーディーに行えるようにすべきであると思えます。多目的グラウンドについても、あいているときには、その場で使用できるようにしていただきたい。

市町村独自のネット予約システムは、利用者事務局双方にとつて、事務手続の簡素化の視点から、また費用対効果を考えた場合も現状では導入効果は非常に低いものと考えております。県が平成21年以降検討している新システムでは、料金決済も検討しているとのことであり、新システム構築に関する会議等に積極的に参加して情報収集するとともに、住民や利用者への利便性を高めるべく、今後いろいろな角度から住民サービス向上を検討していきたいと考えております。



自立3村の連携強化について

Q 昭和村、川場村、片品村の職員交流を行い、お互いの村の長所、短所を勉強し、地域特性を生かした「村づくり」に真剣に取り組んでもらい、さらに各村のそれぞれのネットワークを一本化する

A 村 長

ることにより、3カ村で互換できる事務は3カ村共同で事務を進めれば、より効果的で、より効率よく業務が行われると確信します。このシステム化の構築を利根沼田で最初に行うことの意義は非常に大きいと思いが、基本的には今の広域圏の体系を維持し、その中で共同処理のできるものは積極的に行うことが最善の方策ではないかと考えておりますが、今後十分な検討をしていきたいと思っております。

ここが聞きたい

一般質問



林 幸司議員

公共的な施設でのアスベスト対策は石綿水道管の早急なる撤去を

Q 公共的な施設でのアスベスト使用状況、調査の実施及び撤去、民間への行政指導、窓口設置について伺います。

用の可能性があると思われま。公民館は、吹きつけロックウールを使用しているとのことであり、専門業者の分析が必要です。

A 村 長

役場庁舎は使用があると思われまが調査しておりません。消防団の詰所、地域活性化センター、第1保育園、デイサービス、ふれあい館、元気の家は使用しておりません。各小学校、社会体育館、屋内運動場、弓道場、管理棟は、使用していないことを図面等及び目視によつて職員が確認しております。第2保育園では、鉄骨、外部、軒、天井部に使用しているため、破損の場合には飛散の可能性がありま。総合福祉センター内の機械室の配管類及び断熱材等には使

現状では図面・目視による調査であり、建築士等に依頼し、全施設について調査を実施してまいります。各住民センター等については、要望があれば実施しま。今年度、石綿管布設替え約430mを実施。約300mが残されていますが、森下、川額地内は今年度、東小敷地内も早急に実施しま。

Q 「昭和こんにやく芋」の商標登録を。昭和村ブランドとして登録が可能な農産物は。

A 村 長

高付加価値化やブランド化について、商標登録の必要性やデメリット、メリット等を十分勘案しながら検討していきたい。

G ブランド指定のレタス、アスパラ、雨除けト

行政指導及び担当窓口の設置は、早急に検討・実施をしていきま。

マト、ミニブランド指定のコマツナ、雨除けホウレンソウなどが候補として考えられ、これらを含め総合的に検討していき

食育の推進を

Q 食生活指針、食育基本法制定を受けての食育教育、食育推進基本計画策定について伺いま。

A 村 長

学童期からの生活習慣病予防事業、保育園での栄養業務研修会の開催、食生活改善推進委員活動を通しての啓発活動等を実施。食育基本計画策定については検討していきま。

A 教育 長

小1・5年、中2年を対象に、小児成人病予防実態調査を実施した結果、3人に1人は生活習慣病予備軍がいることがわかりま。

給食時間に望ましい食習慣の育成、家庭科では栄養バランス、社会科では食材、理科では栽培活動など、あらゆる場面で食に関する指導がなされております。



しかし、学校だけでは限界があり、食育基本法の趣旨に沿つて村ぐるみの取り組みへと努力してまいります。

有事法制は具現化するな

Q 武力攻撃事態法が制定され、戦争に村民や行政等が協力させられる有事法制の具体化にはきつぱり反対を。村民保護計画策定と関連条例制定はしないでいただきたい。

A 村 長

武力攻撃事態法35条に基づき、群馬県国民保護計画等に沿つた計画を作成していきま。

全員協議会から

適正なゴミ分別に向けて

指定袋導入へ

資源物保管場実態調査

8月17日

不燃ゴミは、現在、村の資源物保管場（旧射的場後地）に集められ、業者委託により草津町にある最終処分場で処理されています。回収された不燃ゴミの中には、資源としてリサイクルできるものや衣類などの燃やせるゴミが多く混入しており、正しく分別されていないと、正しく分別されていないゴミも多く混入しているため、燃やせるゴミの指定袋導入についても検討しました。



自主自立の三箇村で勉強会開催

8月17日

自主自立を決めた片品・川場・昭和三箇村の協議員が本村に集い議員合同勉強会を開催しました。合併による県内市町村数の変遷や利根沼田広域市町村圏振興整備組合の負担金の問題等について、本村総務課長より説明を受けたのち、質疑・意見交換を行いました。三村では、今後もこのような協議の場を設け連携を図ります。



平成16年度昭和村一般会計及び特別会計歳入歳出決算について

9月7日～9日

総務課より昭和村の財政状況について説明があり、三位一体改革の影響や交付税並びに税源移譲が不透明ななかで歳出の削減に努めたこと、16年度から17年度にかけて公

債費（借入金の償還）がピークを迎えることなどが報告されました。順次、各課からの決算説明がされ、活発な討議が行われました。

昭和村の宝 養蚕民家

— 昭和村には非常に貴重な財産が残っている —

3年前に社寺調査を依頼したNPO法人「街・建築・文化再生集団」が、昭和村に残る養蚕民家について独自に調査した結果が議会に報告されました。

70坪以上もある大規模な養蚕民家が糸井、貝野瀬地区を中心に数多く残っており、これは全国的にも珍しい景観であるとのこと。また、生越地区・横井戸の集落給水も

調査団体の助成金に申込むなど、村も調査に協力。今後は、村内全域を対象に調査を継続していく方向です。



▲村内には養蚕民家が260棟も残っています

念願叶う

関屋工業団地へ 企業進出なる

10月1日付の日本経済新聞記事を受け、昭和の秋まつりが行われた10月2日に議会全員協議会を開催しました。昭和関屋工業団地へ、県内最大級の13万平方メートルを必要とする「味の素フラインテクノ」など3社が進出するというが、真偽はどうかたずねます。

加藤村長からの話では、9月30日に企業関係者や県企業局関係者を交えたなかで話があり、「味の素フラインテクノ」が進出する方向で現在動いています。ただ、企業誘致はどの自治体も力を入れておりますので、はつきり決まるまでは新聞報道の範囲でお話します。」と慎重な姿勢でした。議員からの「会社の

名前は、何を作る会社か、どのくらいの規模か」などの質問には、「会社名は味の素フラインテクノ

であり、半導体基板の電子材料である「ABF」(プリント配線基盤を覆うフィルム状の絶縁材料)を生産する会社である。」との報告がありました。議会も早くから関屋工業団地に企業進出を待っていただけに、折からの朗報に期待をよせております。



▲関屋工業団地

サッカー場計画の動き

今年7月、一部新聞に昭和村にサッカー場建設等の報道がありました。現在の建設に向けて、県のサッカー協会や日本サッカー協会へ助成金交付への働きかけを行っており、年度末には助成金の交付・不交付が決定する予定です。

愛・地球博視察

7月19日
愛・地球博の視察を議員全員参加のもと実施しました。これからの地球上の自然環境の保全、あらゆる面での技術開発、研究等の研修会でした。

その他のハイキ

下草刈りを実施

8月11日
総合運動公園内の下草刈りを、農業委員会、さくら工房の皆さんと共に実施しました。



昭和の秋まつり盛大に開催

10月2日



交流イベント「第8回昭和の秋まつり」が実行委員会主催で盛大に行われ、元氣な昭和村をアピールしました。

出納長が

コスモス畑観賞

9月8日

7月に種をまいた黄花コスモスが満開を迎え、県の後藤出納長が来村し保育園児と共にコスモス畑の観賞を行いました。青空のもと「幸せなら手をたたこう」の歌をみんなで歌うなど楽しいひとときを過ごしました。

橋助役逝去

村助役の橋俣八氏が7月31日病院にて逝去されました。享年73歳でした。昭和村発展のために大変ご尽力いただいた橋助役に対しまして、9月定例会初日、議場において1分間の黙祷を捧げました。安らかに永眠された橋俣八氏に対し、深く哀悼の意を表します。



みなさんからの請願・陳情



自 平成17年5月27日 至 平成17年9月1日

受理番号	受理年月日	件名	陳情者の住所・氏名	紹介議員氏名	付託委員会	審議結果
104	H17.5.27	吹張地区内国有地払下に関する陳情書	吹張区長 豊野 耕司	小野 一男 高橋幸一郎	総務	継続
106	H17.6.10	久呂保電話交換局のADSL化早期実現にむけての陳情書	森下中組区長 堤 康泰 外4名	保坂 初次 堤 盛吉 関上 正雄	総務	採択
107	H17.6.27	「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書を採択しないことを求める要請書	憲法改悪阻止群馬県各界連絡会議		民文	審議未了
108	H17.6.30	義務教育費国庫負担制度の現行水準の維持に関する意見書の提出についての陳情	群馬県教職員組合 執行委員長 真下 治之		民文	採択
109	H17.8.8	小高神社屋根補修工事費助成についての陳情書	糸井財産区長 林 精一郎 外10名	金子松二郎 治田 貞賢 石井 清司	民文	趣旨採択
110	H17.8.9	平和行政推進に向けた要請書	日本青年学生平和友好祭 群馬県実行委員会 実行委員長 吉田 牧人		総務	趣旨採択
111	H17.8.19	障害福祉計画策定に関する意見・要望書	利根沼田聴覚障害者協会 会長 本多 健三郎		民文	趣旨採択
112	H17.9.1	地域農林水産業活性化を図るための「地産地消自治体宣言」を求める請願	利根沼田農民連 代表 野口 意志雄	林 幸司	産建	採択
113	H17.9.1	全頭検査による万全なBSE対策の継続等を求める請願	利根沼田農民連 代表 野口 意志雄	林 幸司	産建	採択

傍聴しませんか

中学生による模擬議会を開催！！



日時 平成17年11月9日（水）
午後1時30分～
場所 昭和村役場 議場

昭和中学校3年生が村の姿勢を問います。
議場において、本番さながら一般質問を行いますので、ぜひ、傍聴にお出かけください。



戦後60年を迎えて

戦後60年を迎えた今年、昭和村公民館において戦没者追悼式が厳かに執り行われました。今回の読者シリーズでは、戦争を体験された5名の方に、戦争への思い・記憶を、当時を振り返って寄稿していただきました。



悲しみは消えず



関上綾子さん
(森下中組・69歳)

ともすれば、あの忌まわしい戦争の記憶も忘れがちな昨今ですが奇しくも戦後六十年と云う年に遺族会の役を仰せつかりまして県の戦没者追悼式、また村の追悼式と参列する機会を戴きました。

台風一過の秋晴れの日には靖国神社参拝と。はるか遠く幼い日に別れました叔父様の御霊に親しくお逢いすることが出来ました。戦争は、人間の一番愚かな行為だと思えます。幾多の人々とし、人生を狂わせてしまいました。

歳を重ねると共にあなた様の父、母の悲しみを
実感することが出来るようになり涙することが多くなりました。
今こうして平穩に過ごせますことも多くの方々の犠牲の上に成りたつて
いるものと深く感謝しております。学齡前の私には、たくさん日の丸の旗が振られたこと、千人針を縫ったこと、面会に行ったこと、おぼつかない手で慰問の手紙を書いたことどれも朧な記憶です。そして凍てつくような悲しい知らせを受けたことでした。

みんな遠い日の出来ごとですが、私たちは卑劣な戦争というあやまちは絶対に繰り返してはならないと強く思いました。

戦中を思い出し



橋 清 市 さん
(常木・87歳)

未だかつて子や孫にも語ったこともない昔話です。

昭和十四年七月近衛勳重兵連隊に召集され即日習志野練兵場に送られ第1中隊に編入され輓馬のほか、銃剣術の教育を受けました。一ケ中隊は五ケ班で一ケ班は四十名位であり、指導者班長以下三名でしたのであまり厳格な教育はいたしませんでした。

一ヶ月の間の教育が終わると北支派遣軍第1旅団輜重隊に転属の命令があり八月二十八日に宇品港出帆の輸送船に乗船、輸送船と云っても貨物船の二千屯だった、丁度台風季節で暴風雨に遭い銅鑼を鳴らし立ち往生だった、皆が船酔いし

た、九月二日青島港に上陸すると、船酔いは直ちに快復が早かった。

上陸後は箱形の貨車にて一路北支包頭市に向け十日間の長旅だった、灯りも、便所も無い不自由だった。

包頭市に到着すると第二中隊に配され、その時驚いた銃の支給が捕獲銃(戦利品)だったのである。銃弾の補充も見込めぬ有様また着剣も出来ぬ有様でした。これでは戦争は無謀だ。尚、軍人に賜りたる勅諭と云うのがあり、兵には日夜暗唱せよと厳しく致しその中の一節に「軍人は政治に拘わらず只一途に己が本分の忠節を守れ」と云われる句がありました。

東條英機大将はその項

をうち破り現役大将が総理大臣と陸軍大臣を兼任したのは不思議なる現象に思えます。

側近に諫める者も無か

敗戦！そしてシベリア抑留生活へ



金 井 喜 八 さん
(森下上組・81歳)

私が戦争終結の玉音放送を聞いたのは、旧奉天、今の瀋陽の東陵で、宮崎中尉の看護をしている時だった。

八月二十日頃であったか記憶に乏しいが分間屯と云うところで松林の中に小銃など又銃して武装解除を余儀なくされた。

士官達の軍刀などもこの場で取り上げられた。また青二才のソ連兵に腕を上げさせられて、腕時計なども取り上げられてしまった。

周囲を鉄条網で張り巡

ったのも不思議です。上手に表現できませんが、度を越した強い主領は諫められません。

らされた北稜の収容所に入ったのは、次の日だったか良く覚えていません。

室内で話などをしていた安井少尉は右肩甲骨部位を貫通銃創で傷を、成田兵長は、その弾で胸部旨管銃創で即死をしてしまいました。

私達野戦病院の隊員は第六十九大隊に編入され十一月末頃だったか、夜暗中を北奉天駅から貨物列車の車窓の一つも無い車内に乗り込んだ。何処をどの方向に走っ

て

ているのか誰も全然わからない。途中で下車させられた地点はソ満国境からソ連へ一つか二つ目の駅のようだったか？列車から降りたが、あまりの寒さで足踏みを続けた。ここで、満州から積んできた麻袋入りの大豆重量七十キロもあるかと思われものものを五十キロくらい離れた倉庫に担ぎ運ばせられた。終着駅はイルクーツクでありました。

それから翌年の初め頃までいろいろの使役をさせられ、愈々本隊は或る夜バトルウィハから山の大隊の伐採中隊として山路を八キロほど暗い夜道を登り歩かせられた、行き着いた所は雪の中で白樺の枝など並べて仮幕舎を作り一夜を過ごしました。

私は伐採班で一辺三十坪の長さで両刃で両端に持つところがある鋸と枝打ち用のタポール(鉋)を持って相棒の東北地方の同年兵と組んでノルマ

に挑んだ。

とにかくあの寒さのなかで疲労困憊やら、飢えやらで作業に向かう途中歩きながら斃れる者、作業中の事故で斃れる者等々、諸々の事象を無能な私には残念ながらご披露することが出来ません。

第二次大戦終結六十年と、日露戦争で日本大勝利であの奉天城に入場してから、恰も百年まさに節目の年に「議会だより」に私の拙い文が投稿できるなんて誠に光栄のいたります。

りです。

過ぎし軍隊生活体験記



林 晴 雄 さん
(滝久保・86歳)

昭和十五年二月宇都宮連隊へ集合、翌、芝浦港より出帆し羅津港に上陸し北鮮線訓戒經由満州琿春七二八部隊門倉隊へ入隊する。幹部先輩は関東軍精銳混成第一旅団に属し、「唯一の機械化歩兵連隊故に大いなる希望と誇りを持ち任務に邁進せよ」と門倉隊長の訓辞があり、兵営に誠心神社を祭り朝夕意義を唱える。吾が連隊が勅諭の五箇条一斉持つて貫く意義をくうす、且つ誠心においては決して他に劣らざるを評調し誠心連隊の一員なるを誇りとす。

日夜訓練、内務に追われ希望により下士官候補生となる、故に特練を受け防毒面を着用せず、瓦斯付着地帯を通過中に呼吸困難に陥り転倒し、瓦斯付着せる草葉に依り左眼突傷す。即、琿春陸軍病院に入院する、そして洗眼、点眼、按法治療を六ヶ月受け、後に退院する。翌年初年兵を迎え教育係勤務に服し昭和十八年四月北海道旭川第二十八部隊へ転属し除隊後満州に渡り満州鉄道株式会社に入社する。数ヶ月後に満州第二八二部隊に召集二道河子上角山馬適達警備にあたる。敦化にて終戦を知る、武装解除後、ソ連貨車にて出発する。数日後バイカル湖に出合歩哨日本海だと言い「ダモイ」と叫ぶ、初め見た湖だけに大きいので



驚いた。数日して湖とも別れ毎日の風取りの日課が始まる襦袢、袴下の縫い目に重なり合う。縫い目を小石でたたくと真赤になる、そして皮はぼろぼろ落ちる。四十五日目にアルタイ州バルナウルに到着する。零下五十度愈々作業が始まる。冬期間は駅構内の除雪また軍事工場や

煉瓦工場へそして雑役をし、夏はソフホーズ、コルホーズへ行き農業をし、帰りに馬鈴薯二、三ヶ物入れに入れて持ち込もうにも、表門で全量没収され三度の食事も充分に与えられず、二ヶ年の捕虜生活も終わり痩せ衰え帰郷す。昭和二十二年六月二十三日復員する。

戦争から平和へ



新 木 二三 さん
(横久保南部・88歳)

この稿の執筆に当たり先ず皆さんに感謝とお礼の言葉を申し上げなければなりません。素晴らしいこの村に生を受けてから八十八年余りの長い間、皆様方の温情溢れるご指導とお力添えを頂き今日の私があることに心からお礼申し上げます。さて過去の幾つかの思い出を記してみたいと思います。世界各国は暴力を以て資源の確保領地の分捕りを繰り返してしました、我が国もその渦中に呑み込まれ、昭和十二年七月七日一発の銃声が支那(現中国) 事変を引き起こし、私も現役兵として入隊して徐州の大戦を始めに各地を丸三年転戦いたしました。

昭和十六年十二月八日大東亜戦争と変わり、苦しい戦いは無条件降伏となつてしまいました。戦後の苦しい生活に耐えた日本は瞬く間に国力を復興させました。当村も同様に自力を強め昭和三十三年久呂保・糸之瀬が合併して昭和村が誕生し昭和四十五年十月役場庁舎を完成させ内外共に充実した態勢が整いました。

不肖、私も同年十二月皆様方のご支援に依り議会議員に当選し活躍の場を与えられました。活力ある村政は、国の補助事業の先取りを積極的に行い進め道路事業・学校や公共施設の設置、農地の整備事業に取り組みました。

斯うした体制が代々引き継がれ町村合併も自立の道を選び村政も大きく変動しようとしていません。百年後の豊かな昭和村の発展の姿を夢見つつ感謝の気持ちと共にペンを置きます。

思い出に残る記事



上毛新聞社沼田支局
岩下省吾さん

「普段、村政や村民に感じて目から見て気軽に書いて」と言われ、この原稿を書いています。

私は昨年3月から、沼田市役所の記者クラブを拠点に利根沼田全域をエリアに取材活動を展開しています。この原稿を書くにあたり、昭和村について、今までどんな記事を書いてきたのか振り返ってみました。

一番思い出に残っているのは、昨年6月10日付一面で「自主自立へ大リストラ、年3000万円節約目指す」の大見出しで報じた記事です。

これは、村議会が特別職給与を一律15%カットする議案を可決するとともに、議員も報酬の一律15%カットと定数を16から12に削減する議案を発

議する動きを取り上げたものです。

国の三位一体改革で地方自治体のやりくりが厳しさを増す中、合併せず自立の村政を選んだ昭和村の財政再建への意気込みを感じ、「これは自立の町村の鏡」だと、デスクに強くアピールしたことを覚えています。

その後、商工会に全国でも珍しい農業生産者の部会ができる話、自然環境を守り、子供たちに自然の素晴らしさを伝える男たちの活動などを記事にしました。

この村の印象は好意的に取材に応じてくれる人が多いこと。加藤秀光村長、故高橋僕八助役をはじめ、職員や議員のみなさんにも優しくご指導いただいております。今後ともよろしくお願ひします。

議会のうごき

7 月

- 1日 議会広報編集特別委員会
- 2日 花いっぱい運動（関屋工業団地）
- 7日 議会全員協議会
臨時議会
- 11日 利根郡広域圏議員協議会・定例
議長会
- 12日 議会広報編集特別委員会
- 19日～20日 愛・地球博視察
- 29日 特別養護老人ホーム「菜の花館」
竣工式

8 月

- 2日 故 橋僕八助役告別式
- 11日 総合運動公園下草刈り
- 17日 議会全員協議会
昭和村・片品村・川場村議員勉
強会
- 23日 戦没者追悼式

9 月

- 1日 正副議長・正副常任委員長・事
務局長研修会
- 2日 議会運営委員会
- 7日 第19回昭和村議会定例会
- 16日

- 10日 東小学校運動会
南小学校運動会
大河原小学校運動会
- 11日 衆議院議員選挙投票日
- 17日 昭和中学校運動会
- 27日 利根地方総合開発協会県へ陳情
- 30日 議会広報編集特別委員会



▲県の後藤出納長が園児とともにコスモス畑を觀賞

大きく育ったコスモスと
元気なみんなに会えて
うれしいです

編集室から

村民の意志等を尊重し、合併しない村づくり宣言して早2年が過ぎようとしていきます。小さくても独立歩の村づくりの道を選択し、職員は課の機構改革を行い、三役・議員、区長ほか非常勤の特別職にあつては報酬カット、補助金カット・・・それでも村民からの不平不満は少なく、昭和村を愛し、郷土愛をもって、活力ある明るく住み良い村づくりに協力をしてくれます。議会も村民の皆さんと一丸となつて、「ベジタFULLLガーデン昭和村づくり」に努力します。

藤井 富夫